

オープンアクセスは議論を受け入れやすい (Mark Chillingworth)

エルゼビアの資金提供論文はオープンアクセスの議論をさらに激化させるだけだろう

Open access open to debate.

Elsevier Sponsored Articles will only add fuel the fire of open access debate.

Mark Chillingworth, *Information World Review*. 10 Jul. 2006. <<http://www.iwr.co.uk/2159980>>

オープンアクセス (OA: Open Access) の議論は長引きつつある。解説者が新聞や小説の最後の行で絶えず予想しているのと同様に、この議論の終焉は絶えず予想されているが、決して到来しないように思われる。出版産業はすべての出版者のように Oxford University Press (OUP) が OA の影響について調査したことに感謝すべきであるが、他の多くと違ってそれらを共有することを選択した。

OUP の調査結果¹⁾を読み、Elsevier の方針の最近の変化を吟味すると、OA に適した雑誌もあればそうでない雑誌もあるように思われる。そして正直に言えば、私は、今やオープンアクセスの定義の仕方や浮上しつつある様々なアクセス方法のますます多くの数がある程度明快にする必要がある、というエルゼビアの立場に同意する。

「オープンアクセス出版の影響の究明²⁾と利用者 : Nucleic Acids Research の深層ログ分析」という調査において、研究者は NAR という雑誌が、独自のコミュニティを持つ比較的独自のものであることを発見している。OUP は調査を実施し、この雑誌に近いコミュニティが OA について、語呂合わせをすれば諸手を挙げて (open arms) 歓迎していることを発見した。しかし、全ての科学領域が助成の遺伝子を引きつけ続けるわけではないだろう。だから、OUP の調査は非著者支払モデル (non-author-pays model) にまだ必要性があることを示している。

Elsevier が資金提供論文 (Sponsored Articles) サービス競争³⁾に加わったので、議論が拡大した。Elsevier は断固としてその原子物理学雑誌の新しいモデルを U ターン禁止にし、そのサービスを資金提供論文と名付け、そのことで明快にしていると考えている。現在、それは産業に影響を及ぼしたいと望んでおり、雑誌や論文をオープンアクセスという一般的用語ではなく別の用語で定義している。これはもったもなことであるが、IT 産業を相手にしている者であれば誰でも知っているように、余りにも多くのベンダーが同じ製品について独自の用語をでっち上げており、標準が見えなくなっている。出版産業は、区分や混乱を作り出すのではなく、コンテンツのアクセスの定義と理解の両方について明快にする必要がある。

注

1) <http://www.oxfordjournals.org/oxfordopen/>

2) http://www.oxfordjournals.org/news/oa_report.pdf

3) <http://www.elsevier.com/wps/find/authorshome.authors/nuclearphysica>